

# トコトコ保育広場 保育発信

トコトコ保育広場 保育発信  
〒417-0801 静岡県富士市大淵 325

## 助成事業の概要

「トコトコ保育広場」のプロジェクトの1つである保育発信は、子どもの未来と育児・保育・教育のあり方を市民レベルで考える「コミュニティ」づくりを目的としています。具体的には、教育・保育、育児に関する講演会、ワークショップ等を1年間に5回開催しました。対象は、幼稚園教諭、保育士、小学校教員、保育者を志す高校生・大学生、そして保護者や地域の住民です。

第1回（6月） 松永静子（白梅学園大学准教授）

参加者 53名

第2回（7月） 東間掬子（元杉並区保育園園長）

参加者 65名

第3回（10月） 多摩川保育園若手保育者

参加者 41名

第4回（11月） 依田敬子（森のようちえん

くじら雲）参加者 20名

第5回（12月） 柿田友広（子どもと本の森

百町森）参加者 21名

第6回（1月） 中山昌樹（あかみ認定こども園

園長）参加者 23名

## 事業の成果

今年度にて、「トコトコ保育広場」は6年目を終えます。プロジェクトの3本柱である「保育探検」「保育カフェ」「保育発信」も定着しつつあります。そのプロジェクトのひとつ、今回の助成金の対象である保育発信では、2つの成果がありました。1つ目は、富士市、富士宮市、静岡市に

において、市民レベルで教育・保育を考える「コミュニティ」づくりにつながっていることです。すでに保育発信も4年目を迎え、参加者は毎回20名を越えるようになってきました。1年間の総参加者数は、223名になります。内訳は、学生、幼稚園教諭、保育士、小学校教員となっています。毎回参加される方も増えてきています。とりわけ地元の保育者と学生等とのグループディスカッションは、学生や高校生にとって保育現場を、保育者にとって保育者を目指す学生の姿について、お互いに知る機会になっています。

2つ目は、コミュニティづくりの副産物として、本プロジェクトが地域に向けて就学前の教育・保育、育児の重要性を知らせる宣伝効果の役割を果たしている点です。社会では広く、就学前の教育・保育、育児の重要性が叫ばれていますが、それについて、社会全体に十分に理解されているとはいえない状況です。それゆえに、保育発信を中心に他のプロジェクトは、社会への保育の重要性を訴えることにも寄与しています。

そして3つ目は、保育発信での学びが他のプロジェクトに影響をあたえ、さらなるプロジェクトを生み出している点です。今年、清水銀座（静岡市）で行われている銀ぶらマルシェにおいて、子どものあそびを創造する空間として、「子どものあそび広場」を開催しました。学生約30名の参加により、落ち葉プールや紙芝居などのコーナーは設けられました。地域の子どもたちや保護者の方々、そして商店街の人々とともに、地域活性化に向けて、子どもや保育という立場から貢献することになりました。

## ■ 成果の広報、公表

---

保育発信の成果については、1年間の活動報告書を作成しています。希望者には、報告書を配付しています（添付資料）。また HP 上にて、活動の様子を関係者等に伝えています。

(<http://hiropyon.wixsite.com/hiropyon-seminar>) 詳細は、添付資料及び HP を参照ください。

## ■ 今後の展開

---

今年度にて、トコトコ保育広場の活動は6年目を終えます。保育発信は、プロジェクトの3本柱（「保育探検」「保育カフェ」「保育発信」）の1つであり、来年度も引き続き継続して活動を行って行く予定です。すでに来年度の講師等も決まっており、会場等の決定をこれからしていく予定です。その際に課題として、経営面において、助成金等に頼らない、自活した組織づくりが今後の課題となります。参加費等の徴収、質の低下を招かないほどの参加者数の確定なども、今後、検討していきます。

それと同時に、今年度、新たに立ち上がったプロジェクト「こどものあそび広場」の第2回、第3回の開催です。トコトコ保育広場の3つのプロジェクト（「保育探検」「保育カフェ」「保育発信」）をリンクさせ、より発展した組織によるプロジェクトにしていくことも、これからの課題です。